

3 アイゴ種苗生産試験*

狭間 弘 学

目 的

本事業は地域沿岸漁業が利用している最も一般的な地方性魚種を対象とし、漁業者の自主的な栽培漁業が成り立つ技術開発とその支援を目指している。本年度より当面は種苗放流の要望の強いイサキとアイゴの種苗生産技術開発を図る。

親魚と経過

'95年8月3日～28日に本県湯浅湾の大型定置網に入網したもの22尾（雌雄比は不明）及び田辺湾の養殖筏周辺で釣獲したもの10尾を入手し、当場内の4 m³FRP円形水槽に收容した。親魚の大きさは平均尾叉長31.5 (28.6～33.6) cm, 平均体重508 (410～605) gであった（表1）。餌料はオキアミ、マダイ用配合飼料、アオサ、カジメなどを土曜日を除き1日3～4回飽食になるまで与えた。收容した翌日

からオキアミを食べ始め、1週間後には水面近くに浮上してオキアミ、配合飼料、海藻などを活発に摂餌するようになった。

減耗は田辺湾で採集した魚が釣獲時の取扱いによって体表と周口部が赤くびらんしているのが数尾観察され、ニフルスチレン酸ナトリウム20ppm溶液で薬浴を行ったが、収容後3日目までに2尾斃死した。大型定置網に入網した22尾については取扱い時のスレや陸上輸送による影響もなく斃死は認められず、全期を通じ養成は比較的容易であった。

一般に本種の産卵は水温25℃以上になる夏期に行われるといわれ、また今回親魚採集の定置網には7月中旬頃に腹部の膨満した個体が多数入網したといわれている。しかし、今回採集した親魚には腹部膨満個体はなく、産卵はしなかった。これは既に産卵後のものとみられた。従って本年度は採卵には至らず、親魚採集と養成飼育にとどまった。

表1 養成中のアイゴ親魚

測定日	採集場所	全長(cm) (範囲)	尾叉長(cm) (//)	体重(g) (//)	尾数
'95.8.30	田辺・湯浅湾	33.9 (30.7～36.5)	31.5 (28.6～33.6)	508.2 (410～605)	32

* 魚類種苗生産技術開発事業費による。